

復興検証と市民と行政による復興状況の確認

復興検証について

復興の進み具合を確認するために、市民対象のアンケート調査やワークショップを実施し、市民参画による段階的な検証を進めてきました。この検証は、復興計画で定めた短期（復旧段階・3年）、中期（再生段階・6年）の復興目標時期ごとに行われました。さらに、平成26年度で復興計画が終了することを見据え、平成25（2013）年から総括となる長期（新生段階・10年）の検証を



検証を行った復興推進委員会

実施しました。

作業にあたっては、行政による復興事業の進み具合を把握するとともに、市民が復興の状況をどう捉えているかを知るために、市内の男・女合計1000人にアンケート調査を実施し、広く意見を求めました。また、市民ワークショップや小学生を対象にした子どもワークショップを開催し、これまでの取り組みを振り返りながら、今後は何に力を入れ、どう取り組んでいったらいいかを話し合いました。



これからの小千谷のあり方を考えた市民ワークショップ



小学生を対象にした子供ワークショップ

長期復興検証結果(総括)の概要

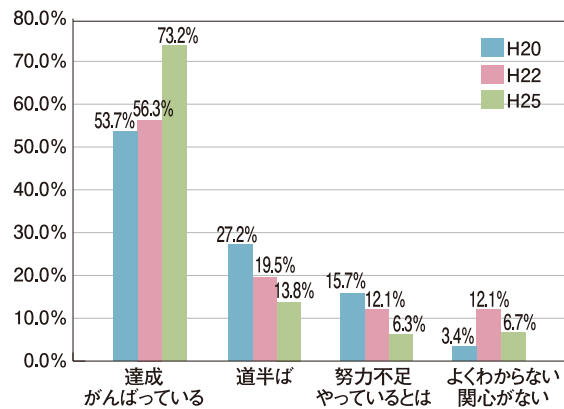
市民と行政が力を合わせて復興計画を策定し、それぞれが復興を目指して精一杯取り組んできました。その道のりは決して平坦なものではなく、様々な困難にぶつかりながらも復興を諦めなかった市民の力によって実現してきたものです。

検証により、復興課題を解決するために計画した事業のほぼ全てが実行され、10年前に思い描いたまちの姿にかなり近い、ある部分ではそれを上回る復興の姿が実現したと、多くの人が実感していることが明らかになりました。復興の確認は、最終的に市民が判断するものだといえます。震災を乗り越え、よりよいまちになったことを実感し、人が前に進む元気と勇気を持つことが復興へ、そして新しいま

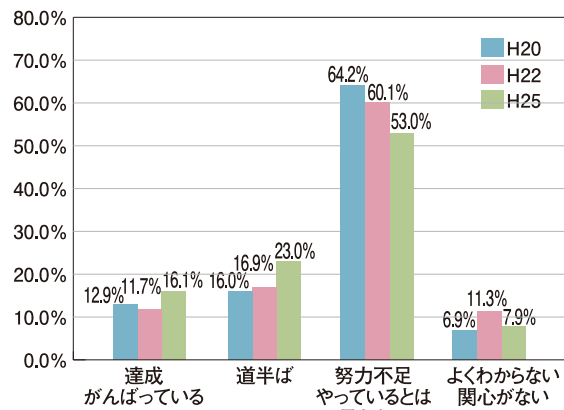
ちへの分岐点になるのではないのでしょうか。もちろん、思い描いたとおりにならなかった目標があります。残された課題をそのままにしておくことはできません。まさにこれから、今後持続できる地域として、生涯楽しく住めるまちとして発展していけるかどうかという正念場です。その実現のためにも、震災を乗り越えた新しい小千谷市のあり方、まちづくりの課題として引き継いでいかなければなりません。

復興計画長期検証の結果として、市民が力を合わせて成し遂げてきた復興を目指した10年間の取り組みについては、復興目標である「震災を乗り越え、小千谷市をよりよいまちにする」ことがおおむねできたとして、市民の力で「復興のまち小千谷」を実現したと総括します。

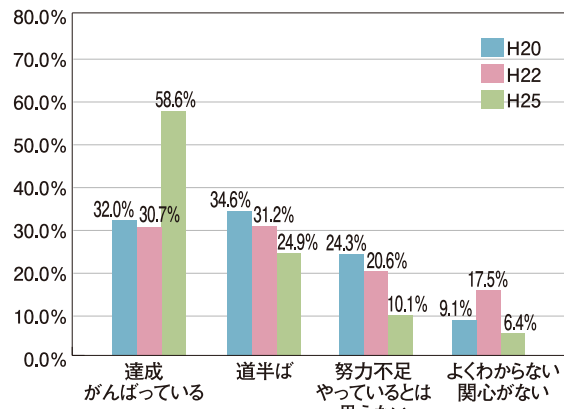
「住宅復興支援」に対する評価



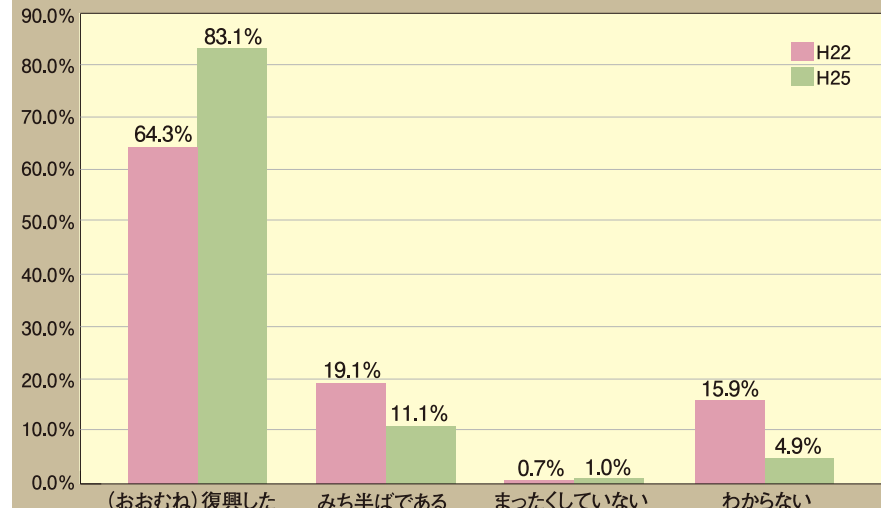
「商店街の活性化」に対する評価



「災害時の情報伝達手段の整備」に対する評価



小千谷市の全体的な復興状況への評価



※いずれもH25.10実施の市民意向調査より



小千谷復興感謝祭おちゃれ元気フェスタ

2004.10.23

【復興検証】

中越大震災からの10年